

利根沼田テクノアカデミー

国交省と意見交換

訓練校の工夫を伝える



訓練の様子を説明

利根沼田テクノアカデミー（桑原敏彦校長）は、国土交通省の職員

見交換会を行った。国土交通省からは五道仁実大臣官房技術審議官をはじめ、境友里技術調査課係長や、関東地方整備局の

construction
に対応した「ICT土工研修」についての説明を行った。

国交省側からは学校の運営状況や訓練生の様子、開校までの流れなどについての質問が飛んだ。

ICT土木研修については建築現場の生産性を2割向上させるためにも、こういった研修を実施して地元で知識と技術を定着させることが大切との見解を一致させている。

意見交換会の後には施設内を視察。カリキュラムの進行に関する工夫や地域密着型の同校の特色をより詳しく説明しながら校内を見て回り、理解を深めた。

会では、アカデミー側から同校と6月に新たに開校したドローン技能訓練校について概要説明と群建協が9、10月に3回に分けて実施するiic

ICT土工研修成功に期待

国土交通省の五道仁実官房技術審議官は2日、群馬県沼田市の職人育成施設「利根沼田テク



説明を受ける五道技術審議官
(右から2人目)

五道国交省技術審議官

ノアカデミー」(桑原敏彦校長)を視察し、意見交換した。

アカデミーの理事も兼ねる青

ローアップ研修も行いたい。社内へ成果を確実に還元させることが重要だ」とその意義を説明。ICT施工に関するミニシンポジウムなどの企画を検討していることも明らかにした。

柳剛群馬県建設業協会会長は、9月から行う「i-Construction」(情報通信技術)土工研修について、「県内企業の中には自社でICT建機を保有しているところもあるが、『技能者としての理解』ではなく『技術者としての理解』へと水準を高めていく必要がある。研修後、3〜4回のフォロー」と話した。

利根沼田テクノアカデミーを視察